

第2回 Internet Symposium

— 医療現場におけるデジタルツール活用 —



日時

2022年7月14日(木) 19:00-20:00

配信

Web配信

Opening
Remarks

座長

草薙整形外科リウマチクリニック 院長
慶應義塾大学 特任教授

桃原 茂樹 先生

講演1

リウマチ疾患に対する日常診療での
デジタルコミュニケーションツールの活用意義・事例
～DX時代に患者満足度向上を目指すクリニックでの取り組み～

演者

安佐南内科リウマチ科クリニック 院長 舟木 将雅 先生

講演2

骨粗鬆症診療での
デジタルコミュニケーションツールの活用
～継続的な二次性骨折予防に係る評価での可能性～

演者

北陸大学 理事 / 薬学部 教授

三浦 雅一 先生

お申し込み方法



パソコンをご利用の方

Step1. ご利用のブラウザから「MeDaCa ホームページ」へアクセス

MeDaCa

Step2. 「Symposium のご案内バナー」をクリック



スマートフォンをご利用の方

右のQRコードを読み取り、お申し込みください。



講演要旨

リウマチ疾患に対する日常診療でのデジタルコミュニケーションツールの活用意義・事例
～DX時代に患者満足度向上を目指すクリニックでの取り組み～

安佐南内科リウマチ科クリニック 院長 舟木 将雅 先生

関節リウマチは関節所見、血液検査、画像検査で総合的に診断する。血液検査は治療開始後も疾患活動性の評価、副作用対策のモニタリングとして必要な検査である。クリニックでは血液検査を受けても外注項目が多く当日に結果説明はできないという課題があった。デジタルコミュニケーションツール（MeDaCa）導入により検査結果を迅速に患者さんへ届けることができるようになった。ただ送るだけにとどまらず検査結果とメッセージを送ることで病気や治療継続の理解を深め副作用の迅速な対応もできるようになった。当院のアンケート結果では利用者は若年層だけでなく高齢者も多く利用できており、医師との距離が身近になったというお声が多かった。医療サービスで最も大切なことはコミュニケーションである。関節リウマチ診療ガイドライン 2020 の「関節リウマチの治療目標は最善のケアであり、患者とリウマチ医の協働的意思決定に基づかなければならない」という治療原則を行っていくための新たなコミュニケーション手段 MeDaCa の活用法を紹介する。

講演1

骨粗鬆症診療でのデジタルコミュニケーションツールの活用
～継続的な二次性骨折予防に係る評価での可能性～

北陸大学 理事/薬学部 教授 三浦 雅一 先生

人生 100 年時代となり、男女を問わず脆弱性骨折のリスク因子を何らかの形で背負いながら生活している。超高齢化社会を迎えたわが国においては、健康寿命の更なる延伸は重要な課題であり、その中でも骨粗鬆症・ロコモティブシンドロームや転倒骨折に対する多職種協働によるアプローチはますます重要となっている。

骨粗鬆症治療においては、罹患者全体の治療率は 15% に留まり、骨折治療率も 20% と低い。原因としては、骨粗鬆症患者のアドヒアランスが不良であること、定期的な検査などが実施されていないことも課題となっている。本年 4 月、厚生省による重症化予防の取組みの推進として二次性骨折予防継続管理料が新設された。報酬の算定条件として、「診療に当たっては、骨量測定、骨代謝マーカー、脊椎エックス線写真等による必要な評価を行うこと」と明記されており、骨粗鬆症連携手帳として PHR（Personal Health Record）の活用が期待されている。本講演では、PHR の骨粗鬆症診療への可能性について紹介したい。

講演2